

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人ゆうえい会	代表者	理事長 久住 一男	法人・事業所の特徴	理念 「ゆっくり いっしょに たのしく」 せかしたり、おしつれたりすることなくその方に合わせた生活を支援します。 顔なじみの人たちに囲まれた家庭的な環境の中を作ります。 今までの生活習慣や想いを大切に自分らしく笑顔の多い毎日を過ごしていきましょう。
事業所名	小規模多機能居宅介護 ゆうばえの家	管理者	鷲尾 圭彦		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	業務に密着する形の改善計画を作成した。	毎日のミーティングを中心に今ある生活の支援を継続して行えた。改善計画通り行えたものが多かった。		より質の高いケア提供のため、利用者の今まで生活してきた生活歴過去にもフォーカスをあてて、その人らしい生活を支援する。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き家具の配置については配置換えを検討していく。より快適な環境を目指して環境に変化を起こしていく。	家具の配置換えを行った。座席を職員が事前に指定し、相性の合わない方同士のトラブルを未然に防止した。玄関の装飾を中心に季節を感じられるしつらえを提供した。		コロナ対策が緩和される中で、事業所として利用者を安全に過ごしていただけるよう環境での感染対策に力をいれていく。
C. 事業所と地域のかかわり	・地域で関わりを持つ時は共有することを行う。 ・地域を対象としたイベント実施したい。(感染症対策を万全に実施する)	11月地域を対象としたイベントを実施し、ラスク販売を行った。 3月ペット販売のイベントを行った。		地域にメッセージを発信できるよう、西内野小学校の行事や、介護の日等のイベント時に通学路に面しており、で交通量の多い道路側の窓に張り紙を行う。地域のイベントに参加を行う。地域の方対象にイベントを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・感染対策を行ったうえで利用者と共に地域に出ていく。	8月の花火のイベントでは希望利用者と他施設の屋上で花火を楽しんだ3月ペット販売のイベントに参加した。		感染対策をおこない施設が企画したイベントに地域住民と参加することを行っていく。更に地域のイベントに参加することを行っていきたい。

E. 運営推進会議を活かした取組み	開催が安全にできると判断したら対面による開催を再開。それまでは、文章開催を継続していく。	運営推進会議を文章開催で6回実施。コロナ感染状況を考慮し、対面での実施は行わなかった。		開催が安全にできると判断したら対面による開催を再開。それまでは、文章開催を継続していく。対面での開催を1回は行いたい。
F. 事業所の防災・災害対策	年2回の避難訓練を継続。	年2回の避難訓練を継続できた。		災害時の非常電源を検討中。補助金ができれば実施予定。避難訓練を2回実施する。

運営推進会議は開催せず、郵送で業務評価と外部シートを送付。6名の委員のうち4名から返信あり。

それをもとに総括表を作成した。